

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：32629

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H01969

研究課題名(和文) 少子化社会におけるライフコース変動の実証的解明：混合研究法アプローチ

研究課題名(英文) Empirical Research on Life Course Change in Low Fertility Society: A Mixed Methods Approach

研究代表者

小林 盾 (Kobayashi, Jun)

成蹊大学・文学部・教授

研究者番号：90407601

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 16,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、教育、就業、結婚、出産といったライフコースに変動が起き多様化した結果、どのように少子化に影響しているのかを、実証的に解明する。そのために、混合研究法を用い、まず2018年度に第2回社会階層とライフコース全国調査(SSL-2018調査)を全国で実施し、量的データを収集した。つぎに、2019年度にインタビュー調査を実施し、質的データを収集した。成果は、書籍『ライフスタイルとライフコース』(2015年)、『ライフスタイルの社会学』(2017年)、『変貌する恋愛と結婚』(2019年)、『美容資本』(2020年)などで発信された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、少子化の要因として結婚から出産への移行が分析されてきたが、その前提である恋愛については信頼できる実証データに欠けていた。この研究では、量的データとして全国を対象としたランダムサンプリングによる訪問面接調査が実施され、恋愛を含めたライフコース変動について、はじめて統一的な量的データが収集された。さらに、インタビュー調査による質的データも収集し、量的データと統合することで、多角的に解明することが可能となった。

研究成果の概要(英文)：This project aims at empirically scrutinizing how life course change of education, work, marriage, and child birth results in the low fertility rate in Japan. For this purpose, using mixed methods, we collected quantitative data by conducting the second Social Stratification and Life course 2018 survey (SSL-2018 survey) in 2018 at the national level. Then, qualitative data were collected by interviewing. Results were published in books such as "Lifestyles and Life Courses" (2015), "The Sociology of Lifestyle" (2017), "Transforming Love and Family" (2019), and "Beauty Capital" (2020).

研究分野：社会学

キーワード：社会階層 ライフコース 少子化 混合研究法

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

1947年、日本における合計特殊出生率は4.54人であった。これが、2014年には1.42人へと大幅に低下した。こうした少子化の背景には、産業構造の変化、価値観の変化、ライフスタイルの変化など、さまざまな要因があるが、この研究ではライフコースにおける恋愛の役割の変容に着目する。

日本社会では、夫婦以外のあいだでの出産(婚外子)が、きわめて少ない。たとえば、2015年で全出産のうち2.3%であった。つまり、ほとんどの子どもが、結婚した夫婦の間に生まれている。いっぽう、夫婦の出会い、戦後まで見合いが中心だったが、1960年代に恋愛結婚に逆転され、現代では9割近くの結婚が恋愛結婚となった(2015年に恋愛結婚が87.3%にたいし見合い結婚が5.5%)。

これらのデータを総合すると、子どもをもちたいなら、そのためのメインルートは、まず恋愛し、つぎに結婚し、そのつぎに出産することといえる。この意味で、もし子どもを望むなら、我われの前にいわば「恋愛の壁」と「結婚の壁」と「出産の壁」が順に並び、それらをすべて乗り越えた人だけが子どもをもてるというのが、現実となっている。

### 2. 研究の目的

本研究は、教育、就業、結婚、出産といったライフコースに変動が起き多様化した結果、どのように少子化に影響しているのかを、実証的に解明する。日本社会では少子化が進行してきたが、ライフコース変動がどのような役割を果たすのかについて、これまで統一的なデータがなかった。

### 3. 研究の方法

そこで、混合研究法でアプローチし、(1)まず全国を対象としたサーベイ調査を実施し、量的データを収集した。(2)その後、人びとの主観的な意味づけを把握するために、インタビュー調査を実施し、質的データを収集した。

サーベイ調査には前提として、本研究の前身プロジェクトで実施した2015年社会階層とライフコース全国調査があった。人びとの多様性を理解するため、2015年3月にインターネットを用いたウェブ調査として実施された。対象者は調査会社の全国モニター約91万人で、うち20~69歳の約11万人に依頼し、1万2007人からデータ収集した。

ただし、モニターに質問したため、ランダムサンプリングではない。恋愛や結婚について詳細に質問する必要があったので、インターネット使用が向いていると判断した。そのおかげで、データは出身地、教育、家族構成などの属性に加え、恋愛パネルデータ、結婚パネルデータ、教育職業パネルデータ、恋愛や結婚についての心理、幸福感や階層帰属意識といった一般的な心理、知り合いや所属集団といったネットワークについて幅広く集められた。

これを踏まえ、本研究では、ウェブ調査ではなくランダムサンプリング調査をおこなった。2018年2~5月に、全国20~79歳の2800人をランダムに選んで調査を依頼し、1126人から回答を得た。訪問面接によって、調査員が対象者一人一人に対面して聞き取りをし、一部留置を併用した。この調査では、いくつかチャレンジを行なった。恋愛について、「恋人人数」「告白した人数」「告白された人数」「キス人数」を質問した。ランダムサンプリングで、こうした恋愛経験がデータ収集されることは、海外でならこれまでであったが、日本でははじめての試みである。さらに、調査員が調査終了後に、対象者の「ルックス(見た目)」や「コミュニケーション力」について、11段階で評価した。恋愛や結婚において、これらの役割が大きいことは間違いないが、

これまでデータ収集されてこなかった。

こうして、恋愛や結婚について、ランダムサンプリングによる代表性のあるデータを得ることに成功した。すると、たとえば(15歳から初婚まで、未婚なら現在までの)恋人人数の平均は、男性で2.8人、女性で2.1人と分かった。

いっぽう、インタビュー調査はサーベイ調査を補足するために、全国の約35人を有意抽出して実施された。半構造化インタビューであり、一人あたり90分から2時間ほどかけた。質問項目はサーベイ調査と同様であったが、よりライフコース変動に絞り込んで、深く語りを聞き取った。とくに、「なぜそうしたのか、しなかったのか」という理由や、「その結果どのようになったのか、それはなぜだと思うか」といった因果関係についての人びとの主観的意味づけを、データ収集した。

こうした語りは、ときに矛盾をはらみ、統合的な理解が難しいことがある。しかし、むしろそうした「ゆがみ」にこそ、人びとの意味世界があるはずだと想定した。

#### 4. 研究成果

(1) 量的データを統計分析した結果、(30代以下の)若い女性は恋愛経験が減ったわけではなかった。若い男性は、しかし、(恋人、デート、キス、性関係のすべてで)40代以上の男性より経験が減っていた(図1)。つまり、恋愛についての心理と行動が、若い世代ほど(男女で)二極化していることが、はじめて信頼できる実証データによって解明された。こうした恋愛の変容が、少子化の要因となっていることが示唆された。

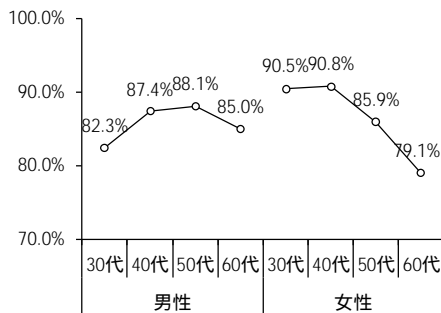


図1 恋人いた人の割合

(2) 質的データ(インタビューデータ)を分析した結果、若い女性たちの恋愛についての規範意識が、明らかになった。人びとは、「恋愛をするべきである」という規範を全面的に信じているわけではないが、恋愛そのものを放棄するわけでもない。たとえば、「生きるために必須のもの」「心の支え」「ロマンチックな恋愛に憧れる」と語られた。こうした紡がれた語りは、「恋愛を疑いつつ信じる」あるいは「恋愛から醒めつつ酔う」といった、いっけんすると矛盾するようだが、重層的で豊かな恋愛のとらえ方といえる。このような恋愛意識は、価値観の多様化した現代社会において、子どもをほしい人にもそうでない人にも寄り添えるようなスタンダードを提供し、少子化を突破する可能性を示唆する。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小林盾	4. 巻 26
2. 論文標題 21世紀の文化評価：48活動の文化威信スコアを測定する	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 成蹊人文研究	6. 最初と最後の頁 63-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森田厚, 小林盾	4. 巻 53
2. 論文標題 職業における男女共同参画はどのように推移するのか：理容師と美容師を事例とした歴史分析, 1910～2010年	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 成蹊大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林盾, 大林真也	4. 巻 31(2)
2. 論文標題 分析社会学の応用：文化活動はオムニボア（雑食）かユニボア（偏食）か	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 理論と方法	6. 最初と最後の頁 303-316
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 J. Kobayashi	4. 巻 26
2. 論文標題 Have Japanese People Become Asexual?: Love in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Japanese Sociology	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 J. Kobayashi and C. Hommerich	4. 巻 32(1)
2. 論文標題 Are Happiness and Unhappiness Two Sides of the Same Coin?: An Analysis of Happiness and Unhappiness	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 理論と方法	6. 最初と最後の頁 49-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林盾, 大崎裕子	4. 巻 24号
2. 論文標題 恋愛経験は結婚の前提条件か: 2015年家族形成とキャリア形成についての全国調査による量的測定	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 成蹊人文研究	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林盾, 谷本奈穂	4. 巻 51号
2. 論文標題 容姿と社会的不平等: キャリア形成, 家族形成, 心理にどう影響するのか	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 成蹊大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 99-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林盾, 能智千恵子	4. 巻 31巻1号
2. 論文標題 婚活における結婚の規定要因はなにか: 結婚研究の視点から, えひめ結婚支援センターを事例とした量的分析	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 理論と方法	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小林盾, 谷本奈穂
2. 発表標題 ルックスと社会階層：実験と調査で計量分析する
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 小林 盾	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 美容資本	

1. 著者名 小林 盾、川端 健嗣	4. 発行年 2019年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 286
3. 書名 変貌する恋愛と結婚	

1. 著者名 小林盾, 中野由美子責任編集	4. 発行年 2018年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 嗜好品の謎, 嗜好品の魅力：高校生からの歴史学・日本語学・社会学入門	

1. 著者名 小林盾	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 209
3. 書名 ライフスタイルの社会学：データからみる日本社会の多様な格差	

1. 著者名 山田昌弘・小林盾編	4. 発行年 2015年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 200
3. 書名 ライフスタイルとライフコース：データで読む現代社会	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ライフコース格差研究プロジェクト  <a href="http://www.fh.seikei.ac.jp/kazoku/index.html">http://www.fh.seikei.ac.jp/kazoku/index.html</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山田 昌弘  (Yamada Masahiro)  (90191337)	中央大学・文学部・教授   (32641)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 嘉倫 (SATO Yoshimichi)  (90196288)	東北大学・文学研究科・教授  (11301)	
研究分担者	數土 直紀 (SUDO NAOKI)  (60262680)	学習院大学・法学部・教授  (32606)	
研究分担者	金井 雅之 (Kanaï Masayuki)  (60333944)	専修大学・人間科学部・教授  (32634)	
研究分担者	筒井 淳也 (tsutsui junya)  (90321025)	立命館大学・産業社会学部・教授  (34315)	
研究分担者	谷本 奈穂 (TANIMOTO Naho)  (90351494)	関西大学・総合情報学部・教授  (34416)	
研究分担者	今田 絵里香 (imada erika)  (50536589)	成蹊大学・文学部・准教授  (32629)	
研究分担者	渡邊 大輔 (WATANABE Daisuke)  (20629761)	成蹊大学・文学部・准教授  (32629)	